

禮は心につゝし、しみありて、人をうやまふを本とし、萬事を行ふに則にしたがひて、正しく理あるを文とす、則とは作法なり、孝經に禮敬而已矣、言ふ意は禮は敬を專とす、而已とは此の外にはなしと云ふ詞なり、朱子曰、禮の本は在于敬、人をうやまふは心のつゝ、しみよりおこる、人をうやまふも、其の人をあらはれむ心より出づる故、朱子も禮は仁のあらはれたるなりといへり、禮記曰、禮は理也、周子曰、理曰禮、理はずちめなり、すちめとは、萬事を行ふに、各正しき則ありて、其の則にちがはざるは即理なり、禮にしたがへば、萬事正しくしてをさまる、理にしたがはざれば、萬事邪にしてみだれて行はれず、朱子曰、禮は天理の節文、人事の儀則なり、天理は自然に定まりてかくのごとくなるべき道理なり、節文は過不及なき、よきほどなるを云ふ、節は過ぎざるなり、文は不及なきなり、うやまひ過すは節にあらず、うやまひたらざるは文にあらず、かぎり過るは節にあらず、いやしくしてふつゝ、かなるは文にあらず、是皆理にたがひて禮にあらず、萬事の節文皆かくのごとし、人事の儀則とは人の行ふわざの、行儀にあらはれたる作法なり、視聽言動の四の身のわざも、萬事の制行も、よきほどなる自然の法あり、是人事の儀則なり、中庸には親親之殺、尊賢之等、禮所生也といへり、言ふ意は、親類をしたしむは仁なり、其の内に父子兄弟諸父從兄弟などの品あり、其の親疎尊卑の次第同じからざる、是親之之殺也、賢を尊ぶは義なり、人に大賢あり、小賢あり、才能ある人あり、舊識恩徳ある人あり、其の内に大小高下の品あり、是尊賢之等也、親類の品に應じてしたしみ、大賢小賢の品によりてうやまふは、是即禮の生ずる所なり、まかれば禮は仁義を行ふに、各其の品にまかたがひて、程よきをいへり、

〔辨名〕上禮 三則

禮者道之名也、先王所制作、四教六藝是居、其一、所謂經禮三百、威儀三千、是其物也、六藝、書數爲、庶人在官者、府史胥徒、專務、御亦士所職、射雖通乎諸侯、其所謂射、以禮樂行之、非若民射、主皮者比焉、唯禮